

【支援ブロック】

日時 令和7年9月30日

学年・組 第1学年(6名)、第3学年(4名)(計10名)

『気持ちの言葉ビンゴ大会をしよう』

討議の柱

- 発表の型は有効であったか。
- 「聞く」「話す」活動を通して書く力を高めることができていたか。

研究授業を終えて

成果

- 自分の言葉で気持ちを発表することを意欲的に取り組むことができた。
- 『なぜかというと～だからです。』の理由も発表しようとする児童が多く見られた。
- 環境整備や児童の学習段階に応じた準備物がよかった。
- 話すことが得意な児童も、型にあてはめることで安心して話すことができていた。
- 探す・選ぶなどの主体的になる行動が入っていた。
- 音楽を使ったことで、次の活動への切りかえができていた。

課題

- ビンゴにこだわる児童へ活動中ビンゴにならなくても悔しがらないなどのルールを活動前に提示する。
- 説明が長かった。
- 活動中、他の班の声に集中力が継続しにくい。
- 理由の答え方(こわい気持ちになる時を説明する際に「私はお化けが出た時にこわい気持ちになります。どうしてかという、お化けが怖いからです。」と発表した場合、なぜお化けが怖いのかということ)
→追求する必要がある。

今後に向けて

発表の型は有効であったか。

- その気持ちになるエピソードをさらに深堀し、説明とそれについての理由が異なる内容になるような活動を行う。

「聞く」「話す」活動を通して書く力を高めることができていたか。

- 聞かなきゃより、聞こう!と思えるように聞く意味を伝えることが必要。
- 集中力を継続させるための手立てとして、3 グループそれぞれの発表の向きを違う配置にすると、他のグループを気になる児童が減るのではないか。
- ルール説明が少し長かったため、ルール説明は動画を作り、見本として見せる。

校内研修 感想

- 掲示物や発表の型、見通しなどとても丁寧につくりあげられているなど思いました。それぞれがちがう配慮の必要な子どもたちが同じ活動を楽しそうに取り組んでいる姿を見て心が温かくなりました。支援学級での取り組みも教えていただきながら、学級でも居場所づくりになるように実践に繋げていきたいと強く思いました。
- 表情カードの使い方がとても参考になりました。気持ちを言語化し、それはどんな時かを型を使って話せるようにしているのがとても分かりやすく、子どもたちにとっても安心して発表できる手立てだったと思いました。